

古町地区の百貨店①

■百貨店競演

人々に惜しまれながらも閉店した大和新潟店（平成 22 年閉店）、新潟三越（令和 2 年閉店）は新潟を代表するデパートでした。

大和の前身は「万代百貨店」と言い、地元の商店主たちが東京の百貨店などの協力を得て開業しました。三越の前身は「小林百貨店」と言い、地元の小林呉服店が創業しました。

新潟の目抜き通り柁谷小路を挟んで、両百貨店が開業したのは、昭和 12（1937）年 9 月です。どちらも開店初日には多くの人押し寄せ、『新潟新聞』は「新しいもの好きの市民殺到」、「どこもかしこも人波」の見出しで、その盛況ぶりを報じました。

市内初の 6 階建てのビルディング、エレベーター、流行の商品、華やかな店内装飾、百貨店はそこだけ都会の雰囲気漂っていました。両店とも 5 階に催事場があり、「国民精神総動員作品展」や「支那事変写真展覧会」などの時局がらみの展覧会、「新潟工芸展」や「商業美術展覧会」などの美術展も見ることができました。昭和初期には古町通中心部が市内で最も繁華な商店街でしたが、百貨店の開業により、古町へ一層客が集中するようになりました。



新潟ビルディング（古町六番町）で営業していた頃の小林呉服店のチラシ（当館所蔵）



昭和 30 年 新潟大火前の大和新潟店（当館所蔵）



昭和 30 年代 新潟大火後の小林百貨店（当館所蔵）